

東日本地域の大学・短大・高専の教育改善を推進する

FD ネットワーク “つばさ”

Innovation on Higher Education in East Japan

研 究 年 報

2024

山形大学教育推進機構

目 次

目 次

第1章 令和6年度実施事業	1
第2章 加盟校による令和6年度のFD活動	3
第3章 FD協議会	22
FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧	24

第1章

令和6年度実施事業

令和6年度実施事業

国立大学法人 山形大学

FDネットワーク“つばさ”では、47校の大学・短大・高専の連携により、以下のFD事業を実施した。

【参加者】第1部31名(21校)、第2部33名(19校)

(1)FDワークショップ

【開催日】令和6年9月11日(水)

対面及びZoomによるハイブリッド形式開催

第1部 基調講演

演題:「障害学生への合理的配慮と大学の責務～文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会」第三次まとめをもとに～」

講師:白澤 麻弓 氏

筑波技術大学 障害者高等教育研究支援センター 教授

第2部 ラウンドテーブル

第1分科会

「大学における基盤教育について～教育DXによる質的向上の視点から～」

コーディネーター:山形大学 学士課程基盤教育院 准教授 橋爪 孝夫

第2分科会

「基盤力テストから見える学生の学習到達度とは？」

コーディネーター:山形大学 学術研究院 教授 浅野 茂

パネリスト:香川大学 教育・学生支援部 教育企画課長 後藤 雅美
山形大学 研究情報部学術情報課専門員 鈴木 達哉

第3分科会

「社会課題解決型の教育プログラムの地域社会における役割と展望」

コーディネーター:山形大学 社会共創デジタル学環

設置準備室長・教授 渡邊 信晃

山形大学 社会共創デジタル学環

教授 奥野 貴士

パネリスト:東北芸術工科大学 デザイン工学部 教授 酒井 聡

:東北公益文科大学 観光・まちづくりコース

准教授 渡辺 暁雄

【参加者】第1部71名(11校)

第2部 第1分科会 16名(6校)

第2分科会 12名(5校)

第3分科会 12名(4校)

(2)FD協議会

○第32回FD協議会

【開催日】令和6年6月28日(金)

対面及びZoomによるハイブリッド形式開催

【内容】

第1部 協議会

第2部 事例紹介 「基盤力テストの全国実施状況について」

(事例紹介校)

国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学

国立大学法人 香川大学

(3)学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」

【開催日】令和7年2月17日(月)

学生発表参加者は対面

視聴者は対面及びZoomによるハイブリッド形式

【場 所】山形大学小白川キャンパス(山形県山形市)

【出場校】札幌大学、北翔大学、東北芸術工科大学、山形県立保健医療大学、山形大学

計7チーム

学生 16名 教員 6名 視聴者(対面・Zoom)11名

(4)その他

○週間・授業改善ルーエッセイ

寄稿校:19校掲載(FD ネットワーク“つばさ”ホームページ)

*3月19日現在

第2章

加盟校による 令和6年度のFD活動

札幌学院大学

FDセンター

令和6年度の活動について

2月に外部講師を招聘し、FD研究会を対面で開催したほか、昨年度に引き続き、年2回の授業アセスメント（旧：授業評価アンケート）を実施、継続事業も含めて、以下の取組を行った。本学は2キャンパスで展開しているため、教職員が一堂に会することが難しく、オンライン中心とした活動が主となっているが、対面での活動についても少しずつ取り入れていきたいと考える。

(1) 授業アセスメントの実施

年2回の授業アセスメントは、履修者6名以上の全学部開講科目を対象として、Web調査によって実施した。Webでの調査は、回答者の利便性向上が図れることや集計作業においても負担軽減に繋がるが、回収率が低い点が問題となっており、周知方法や実施方法を含めて検討、試行錯誤を重ねてきた。昨年度に引き続き、教室の机の上にQRコードを貼付し、回答を促したが、昨年度より低い回答率にとどまっており、大きな改善は見られなかった。また、その実施方法や結果の有効な活用については、定期実施となつて以来15年以上を経ており、抜本的な見直しが必要な段階にあると考えており、引き続き検討を行いたい。

(2) FDを推進するための活動補助事業

積極的に授業改善に取り組もうとする教員の動機づけを促すとともに、実践の中から得たノウハウや知見を全学的に共有することによって、大学全体の教育の質向上を図ることを目的とした事業である。今年度は3件の応募があり、教育改善に寄与することができた。取り組み内容は年度末に活動報告会を行う予定である。

(3) 各学部学科におけるFDの充実

各学部教授会や学科会議等の会議時間を活用して「10分FD」を実施している。授業運営等、教員の教育力向上を図るとともに学部・学科間の教育上の情報共有を行うことを主眼としている。10分FD実施後は、報告書を作成・提出を求めるとともに、FD充実の一つとして、報告を全学部学科で共有した。

また、2024年度からは新たな取り組みとして、各学部教授会や学科会議等の会議時間を利用し、研修動画を使用したオンデマンド型の研修を行った。

(4) 学生相談室活動報告・情報交換会FD/S D研修会

学生相談室主催のFD/S D研修会を前期と後期にオンライン開催した。前期は「学生と向き合う：異なる視点からの学生理解～学生支援につなげる情報交換と共有の場～」をテーマに各部署の学生への対応について、報告と情報の共有を行った。後期は「学生理解を深めるためのプロセスと関わり方」をテーマに、事例を通して、時期や学年による学生の特徴や課題について共有を行った。

(5) 発達障害のある大学生への修学就職支援に関するFD/S D研修会

アクセシビリティ推進委員会主催のFD/S D研修会をオンライン開催した。障害学生支援の基本的な考え方として文部科学省が示す「障害のある学生の修学支援に関する検討会報告」、いわゆる「第三次まとめ」のポイントや、障害学生支援に必要なことなどについて、学外から講師を招聘し、講話いただいた。

(6) FD研究会・SD研修会

「関係の取りにくい学生へのコミュニケーションデザイン2」をテーマに学外から講師を招聘し、FD研究会・SD研修会を対面開催した。コミュニケーションデザインについての講義の後、少人数に分かれて、コミュニケーションワークを実施した。



キャンパスが分かれていることにより、昨今はオンラインを中心とした研修が主となっているが、対面では質疑の活性化などのメリットが見込まれる。今後も両方の方法を上手く取り入れ、学びやFD活動の活性化に積極的に働きかけていくとともに、各教員の取り組みや工夫を共有し、来年度の授業改善につながることを期待している。

<主なFD活動>

- ・7月 前期授業アセスメント実施
- ・9月3日(火) 学生相談室前期活動報告、FD/SD研修会(学生と向き合う:異なる視点からの学生理解～学生支援につなげる情報交換と共有の場～)【教職員46名参加】
- ・12月下旬 FD/SD研修(本学の入試状況について)【教員80名参加】
- ・12月下旬～1月下旬 後期授業アセスメント実施
- ・2月14日(金) FD研究会・SD研修会(関係の取りにくい学生へのコミュニケーションデザイン2)【教職員23名参加】
- ・3月中 令和7(2025)年度「FDを推進するための補助事業」募集
- ・3月4日(火) 学生相談室後期活動報告会、FD/SD研修会(学生理解を深めるためのプロセスと関わり方)【教職員32名参加】
- ・3月11日(火) アクセシビリティ推進委員会FD/SD研修会【教職員41名参加】
- ・3月24日(月) 令和6(2024)年度FDを推進するための活動補助事業&FDフォーラム報告会(開催予定)
- ・3月下旬 FD/SD研修(高校訪問のポイント、相談会参加のポイント)(開催予定)

北翔大学・北翔大学短期大学部

FD支援委員会 委員長 松澤 衛

本学FD活動を統括するFD支援委員会では、FD事務担当部署が「FD」のみならず本学「ICT関連の統括」と二足のわらじで活動しており、ストロングポイントである「ICT」を武器に、精力的にFD活動／取組を実施している。

また、本学学生FDスタッフ「アンビエント」は、学生視点で様々なFD関連イベントを開催しており、本学FD活動に寄与している。

1. FD/SD 研修会

本学では教職員のスキルアップを以て学生に還元すべく、例年数回「FD/SD研修会」を開催している。

(1) 初任者研修

新任教員に向けて「本学沿革と大学を取り巻く状況」「本学の教育課程と授業」「本学FD活動」等に関する説明会を開催した。

(2) 生成AIとどう付き合うか

昨今ChatGPTやCopilotといったAIサービスが簡単に誰でも利用できるようになってきたことを踏まえ、「生成AIとどう付き合うか」をテーマに基本から最新サービスの操作デモを含めた研修会を開催した。

AIの世界観、生産性／作業効率化、不安や懸念など、多くの教職員から様々な感想／質問が挙がった。

(3) 障害学生支援に関する説明

全教職員の「合理的配慮」及び「障害学生支援」に関する共通認識を図るべく、研修会を開催した。

- ・ガイドラインの改定・その他の変更
- ・障害学生支援の理想と現実
- ・ピアサポートについて など

2. ICT相談会

授業に効果的なICT機器活用術やソフトウェアの最新動向などをレクチャ／質疑応答、並びに個別対応など

「ICTに関する何でも相談会」を月数回程度オンラインで開催した。「Excel操作」から「PowerAutomate」関連の話題など、今年度は20回開催した（継続開催中）。

3. 授業改善アンケート

本学ではウェブアンケート方式にて、年2回（前学期／後学期）開催した。

近々の課題であった「回答率向上」においては、試行

錯誤しながら全体的に少しずつ向上が見受けられるが、引き続き模索していきたい。

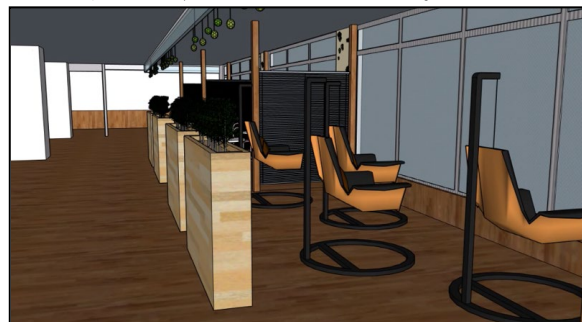
4. 学生FD活動

(1) 翔タイム！

本学では学生教職員の意見交換イベントを「翔タイム！」と称して不定期開催している。

今年度は「学生の居場所を作る」というテーマで学生12名／教員5名／職員5名が5グループに分かれ、プレゼンテーション大会を開催した。

最優秀プレゼンテーションの具現化を目指すべく、学内識者から意見収集を経て更なるブラッシュアップを行い、学生の声が最終的に「お洒落な休憩スペース」として学内に実装されることとなった。



(2) 学生主体型授業「合同成果発表コンテスト」

本学からも学生2名が発表に参加した。

アクティブラーニングで学んだ様々な体験からプレゼンテーションに臨んだ学生の姿を大変誇らしく思う。他大学との交流もあり参加者は良い刺激となった。



5. 今後の活動課題

学生は当たり前のようにスマホを道具として取り扱い、AIを活用する状況にある中、本学教職員においても知識／技量をアップデートしていかなければならない。本学の特性や現状を鑑み、今後も研修会などに注力しつつ更なる底上げを図りたい。

延いては学生満足度向上につながるものとする。

八戸学院大学 八戸学院大学短期大学部

FD委員会委員長 石原 良明

本学は、八戸市内のカトリック学校で1931年設立の八戸和洋裁縫女塾（現・八戸ウルスラ学院）に源流を持つ、地域のための高等教育機関である。地域の多様な教育ニーズに応え、地域の特性をより良くいかすために発展し、1956年に光星学院高校を設立して以来、1971年の八戸短期大学設立、1981年の四年制の八戸大学設立を経て、現在では八戸学院として発展を続けている。現在高等教育部門は四大の地域経営学部と健康医療学（人間健康学科、看護学科）、別科助産科、短期大学部に幼児保育学科と介護福祉学科を擁し、全学1200人規模となっている。

本学におけるFD活動は、2009年までは四大と短大とでそれぞれFD活動を行っていたが、それぞれの歩調と関心を合わせることを目指して2010年度より合同のFD委員会を立ち上げ、授業改善のための情報共有を中心にFD委員会活動を行っている。

学部学科ごとに抱える問題や学生の個性、授業実施方法などが大きく異なるため全学的な研修会を行うことは企画段階から念入りに議論を行っている。

2021年度からは研究倫理・コンプライアンス教育、啓蒙活動の業務も担っている。

以下に、今年度のFD活動の概要（授業アンケートを除く研修会等）を記述する。

○令和6年度（2024年度）のFD活動

・新任教員向け「はちがくキャンパスWeb」研修会

開催日 令和6年4月3日 水

講師 馬場 祥次（八戸学院大学地域経営学部准教授）

・令和6年度FD研修会（写真参照）

テーマ：「学習意欲を高める授業づくり」

開催日 令和6年10月30日 水

講師 邑本 俊亮（東北大学 災害科学国際研究所 教授）

様々な学生の学習成果を向上させるため毎年研修会を開催している。新任研修では学内で提供されている授業支援システムの活用方法について研修する機会を提供しているが、これは希望者の教員は誰でも参加できる。

FD研修会は毎年秋に開催しており、近年では学外から

講師を招いている。



・教員相互の授業参観

教員相互の授業参観は、全学教員に取り組みを要請している。本学の教育力向上を目指して、各学科のFD委員が検討して選出した代表教員に公開授業をお願いした。

①講義日：9月24日 火 2時限目

科目名：地域スポーツ論

担当：三本木 温（健康医療学部人間健康学科 教授）

②講義日：9月25日 水 3時限目

科目名：成人看護援助論II

担当：市川 裕美子（健康医療学部看護学科 准教授）

③講義日：9月26日 木 2時限目

科目名：人的資源管理

担当：井上 丹（地域経営学部地域経営学科 准教授）

④講義日：10月8日 火 2時限目

科目名：体育概論

担当：本吉 好（短期大学部幼児保育学科 講師）

⑤講義日：11月12日 火 1時限目

科目名：コミュニケーション技術I

担当：小川 あゆみ（短期大学部介護福祉学科 教授）

これらの授業については、後日にもオンライン視聴できる環境を整えた。また、教員が任意に授業参観させてもらえるよう個別に依頼することも可能である。

代表教員による授業参観の場合でも任意の個別依頼の授業参観の場合でも授業後アンケートを実施し、感想は担当教員にフィードバックして授業改善に役立ててもらったこととしている。

今後は、これら取り組みの実質化と成果の見える化を目指して、FD活動を継続していきたい。

仙台大学

教育改善企画運営委員

山内 明樹

本学では、教員を中心にFD活動を実施している。主な活動は、(1) 学内FD研修会の企画運営実施、(2) 授業改善アンケートの実施、(3) シラバス・ルーブリック作成の支援、(4) FD活動の広報・周知である。

(1) 学内FD研修会の企画運営実施

本年度は、次の4つの研修会を実施した。

① 新任教員FDセミナー

4月2日(火)に今年度着任した新任教員を対象としたスタートアップ支援FDセミナーを開催した。本学のカリキュラムをはじめとする教務に関する事項とFD活動等について説明をした。

② 学修状況調査の概要報告研修会

本学では6月5日(水)から7月12日(金)にかけて、学生に対する支援と指導のために日常の学生の学修状況について、基礎的な資料を得ることを目的とした学修状況調査を全学生にWebアンケートにて実施した。この調査結果については、回答率が約75%となり、9月24日(火)に開催した教授会で報告を行った。この調査結果を通して、学年、学科、希望する進路、スポーツ活動の有無等と学修状況との関係が示された。

③ 授業改善FD研修会

9月24日(火)に情報・データサイエンス教育運営チームと共催で研修会を開催した。講義型・実習型に分けて2023年度の授業評価アンケートが高評価の教員や、学科代表の教員へ依頼し、実際の取り組み事例などの説明を行い、情報・データサイエンス教育運営チームからは、ICTを利活用した教育事例紹介を行った。また、今年度より参加を希望する外部一般参加者を受け入れている。

④ 授業づくりのためのFD研修会(学生参加型)

本学では、学生と教員が参加する研修会を毎年開催している。今年度は、「グループワークの困りごと」をテーマに掲げ、12月10日(火)に研修会を開催した。対面で教員と学生が集まり、教員と学生を交えたグループをつくり、グループワークと

ディスカッション、グループごとに発表を行った。

(2) 授業改善アンケートの実施

原則としてすべての科目を対象に「FDネットワーク“つばざ”」のフォーマットで「授業改善アンケート」を受講学生全員に実施した。個々の授業の改善を目指し、授業内容・教授方法に対する学生の反応を探ることが、本アンケートの大きな狙いの一つである。

結果は、本学独自の「授業改善アンケート活用フォーム」を用いて、集計結果を基に各教員が担当科目と全体平均などとの比較が出来るようになっている。

実施期間：年2回

(3) シラバス・ルーブリック作成の支援

教育改善企画運営委員会では毎年次年度の様式や記載内容の項目について検討し、統一様式により、原則すべての開講科目について作成を依頼している。学生にとってよりわかりやすいシラバス・ルーブリックとするために、本年度も教員に配布しているシラバス・ルーブリック作成要領「(シラバス・ルーブリック作成の手引き)」の見直しを行った。なお、シラバス・ルーブリックは本学ホームページにも掲載し、保護者等も閲覧できるようにしている。

(4) FD活動の広報・周知

① FD広報冊子の作成

本学では、FD広報冊子(SUFD Report)を年に1度発行している。この冊子の発行の目的は、本学の教育改善企画運営委員会が実施しているFD活動の内容を、学内外に周知することである。

② 学外のFD研修会情報の提供

学外において開催されているFD研修会についての情報提供を行っている。メールやポスター等で届いた開催案内を教員向けに整理し、全教員を対象にメールで周知をしている。今年度については、1名の委員が「第26回基盤教育ワークショップ」にオンラインにて参加した。

山形県立米沢栄養大学 山形県立米沢女子短期大学

山形県立米沢栄養大学
自己評価改善・SDFD 委員会委員長 安部 貴洋

山形県公立大学法人は山形県立米沢栄養大学と山形県立米沢女子短期大学の二大学を有しており、両大学合同で研修会や活動を行うことが多い。令和6年度は以下のような研修会や活動を行った。

令和6年度の研修会・活動

4月・情報セキュリティ研修会（対面・オンライン、0/D）

「情報セキュリティの脅威から身を守る」

講師：株式会社管理システム

システムソリューション課 佐藤 洋也 氏

6月・研究倫理コンプライアンス研修会（短大、対面）

・前期学生の声アンケート（7月末に学生へ回答）

7月・前期授業評価アンケート

8月・SD研修会（対面・オンライン、0/D）

「新しい大学評価・短期大学認証評価、内部質保証について」

講師：公益財団法人大学基準協会 評価研究部

企画・調整研究課長 松坂 顕範 氏

・前期集中授業評価アンケート

・研究倫理コンプライアンス研修会（栄大、0/D）

9月・SD研修会（対面・オンライン、0/D）

「大学教育における生成AI対応と課題」

講師：東北大学 データ駆動科学・AI 教育研究センター

デジタル教育研究部門 准教授 三石 大 氏

11月・後期学生の声アンケート（1月に学生へ回答）

12月・後期授業評価アンケート

1月・授業改善研修会（短大、対面）

「英語英文学科で取り組むTOEIC IPテストを活用した学習成果の把握に関して」

講師：英語英文学科 教授 渡邊 真由美 氏

1月・「山形大学データサイエンス科目オンデマンド教材」の共有説明会（対面・オンライン）

講師：山形大学データサイエンス教育研究推進センター長 教授 奥野 貴士 氏

講師：山形大学データサイエンス教育研究推進副センター長 教授 脇 克志 氏

※栄大は授業改善ワークショップに位置付ける。

2月 後期集中授業評価アンケート

令和6年度の研修会の概要

令和6年度は認証評価、そして生成AIに関する研修会等を行っている。まず8月には公益財団法人大学基準協会から松坂顕範氏を講師にお迎えし、2025年から始まる第4期の認証評価に関する研修会を行った。そして9月には東北大学の三石大氏を講師にお迎えし、生成AIに関する基本的事項や大学における生成AI対応に関する研修会、1月には山形大学データサイエンス教育研究推進センター長・教授の奥野貴士氏と山形大学データサイエンス教育研究推進副センター長・教授の脇克志氏を講師にお迎えし、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI」教育導入に関する研修会を行った。

ここ数年の研修会のテーマ

大きく変化する社会における高等教育機関のあり方の模索は、ここ数年の研修会における重要なテーマとなっている。平成30年には「高等教育の動向／公立大学の課題と現状」、令和元年度には「(短期)大学認証評価受審について」、令和3年度には「高等教育機関における内部質保証について」、令和4年度には「選ばれる大学になるために、地方小規模大学が取り組むことを学ぶ」をテーマに研修会を開催してきた。このように、ここ数年の研修会では高等教育機関をめぐる社会の動向を学び、どのように両大学を位置づけていくのかを模索しつづけてきた。

「学生の声」に学ぶ

だが、今後の方向性を模索するために学んできたのは社会の動向ばかりではない。「学生の声」にも学ぶ工夫を、ここ数年重ねてきた。まず、多様な「学生の声」を聴くために、専用のメールアドレスの設置、前期・後期の「学生の声アンケート」「授業評価アンケート」、そして「学生と理事との懇談会」といった様々な機会を設けてきた。また、より多くの「学生の声」が届けられるようにアンケートの文言や実施時期、回答方法に工夫を重ねてきた。さらに、より豊かな「学生の声」になるように、届けられた「学生の声」に対して、内容に関してはいうまでもなく、文言等も関係機関で検討し、回答を掲示するといった丁寧な対応を行っている。確かに、このような取組みの成果は必ずしも明確に見えるものではない。だが、回答率やアンケートの文言にみえる微妙な変化にも、学生と教職員とのこれからの「つながり」が見えるように思える。

鶴岡工業高等専門学校

FD・点検改善委員会 委員長 齋藤 菜摘

1. R6年度FD活動の基本方針と概要

本校ではこれまで、教育の内部質保証に関する業務を遂行する学内チームとして教育改革FD委員会、教育点検委員会、教育改善委員会という3つの委員会が存在した。R6年度より、それらが統合された「FD・点検改善委員会」がその役割を担うことになった。この狙いは、教育改革に関わる各種取り組みを無駄なく、より確実に教育の質向上に結びつけることである。本年度は特に、取り組みのフィードバックから改善に重きを置いて、PDCAサイクルを適切まわすことを意識したFD関連活動を実施した。

令和6年度に実施したFD関連活動

- 4月 R6年度担任研修会
- 8月 R5年度シラバスの点検
- 9月 前期開講授業アンケート実施
- 11月 前期授業アンケート結果の全教員への開示と結果に対する教員からのコメント回収
- 11月 前期授業アンケート、R5年度教務保存資料、R5年度シラバスの改善案の提案
- 11月 教員相互による授業参観
- 1月 FD研修会（授業アンケートの振り返り、および、国立高専国際標準認定制度; KISについて）
- 2月 後期開講授業アンケート実施
- 3月 教育保存資料（試験答案・レポート等）の点検

2. 授業アンケートによる教育改善

本校では、前期末と学年末の年に2回の授業アンケートを実施している。アンケート結果のデータ解析を専門業者に委託し、数値に見える化した個票を各教員に配布している。学生自身の理解度や学生から見た教員の教授法が数値化されているだけでなく、優先的に改善に取り組むべき課題項目が提示されるため、授業改善に役立てられるようになっている。授業アンケートは学生の正直な声を広く吸い上げることができるため、教員に気づきを提供する重要なものである。しかし、授業アンケートを取りまとめる担当になって全体を見てみると、「前回から改善されていない」「前と変わっていない」などのコメントが散見され、アンケート結果を組織的な教育改善に連結しきれていないことが課題だと気づいた。そこで本年度、前期開講授業アンケ

ートの実施から集計、フィードバック、改善案の提案までの行程を委員会で議論し、授業アンケートを授業改善に最大に活用できるよう試みた活動を紹介する。

R6年度前期の授業アンケートは、全体で70%の回答率であった。クラス担任からの周知、ホームルームや特別活動中での回答の促しを依頼し、3学年までの低学年の回答率は80%程度まで達した。回答を集計し、委員会で全コメントから要改善コメントの抽出を行い、全体に共通する一般的な改善点、科目や教員個別の案件を整理した。これらの改善点を必要な教員に確実に届けるためのスキームを示した改善案（委員会からの要望）を提案し、組織的な教育改善を試みた。各教員には、科目ごとの個票を確認後に自身で認識した改善点を委員会に報告すること、学生からのコメント（特に改善要求）に対して学生に誠実に回答することを依頼した。また、授業アンケートで浮き彫りになった一般的な改善点や評価が高い科目における工夫点などについて、FD研修会で情報共有を行った。

3. FD研修会における授業アンケートの振り返り

本年度のFD研修会は、授業アンケートのフィードバックと国立高専国際標準認定制度（KIS）の情報提供の2つのトピックで実施した。ここでは、授業アンケートについて述べる。授業アンケートの要改善コメントをまとめると、概ね次の3つに大別された。1. 授業の準備状況、2. 情報伝達、3. 教員の言動など。これらについての具体的な事例を共有し、ディスカッションを行った。議論していくと、なぜ学生がそのように感じたのか、なぜ不具合が生じたのか、などいくつかの原因が予測され、今後の授業で留意すべきことが全体に認知されたように感じた。また、アンケート実施方法についても建設的な意見が出され、より効果的に授業アンケートを実施するためのアイデアが集約された。

4. まとめ

本年度のFD活動報告は、授業アンケートのフィードバックに着眼して述べた。どのような取り組みにおいても実施後の効果を検証することが重要であるが、ここが最も手間がかかり、ルーティン作業に落とし込めない部分だと思われる。今回の授業アンケートでは貴重なデータを詳細に分析し、「やりっぱなし」にならないためのフィードバックを重視した。今後、これらの取り組みの効果をしっかりと検証することが課題だと考える。

桜の聖母短期大学

学務部長 狩野奈緒子

桜の聖母学短大は、建学の精神として「カトリックの精神に根差した人間観・世界観に基づく知的・倫理的見識を養い、豊かな心と深い教養をもって、愛と奉仕に生きる良き社会人を育成すること」を挙げている。

1. 授業公開の活発化と授業の質改善に向けて

桜の聖母短期大学は、キャリア教養学科、生活科学科食物栄養専攻、同じく福祉こども専攻の2学科2専攻、定員130名の小規模の短期大学である。生活科学科食物栄養専攻は栄養士養資格、福祉こども専攻こども保育コースは保育士資格、幼稚園教諭2種免許状取得を核にしたカリキュラム編成、キャリア教養学科は、高度な教養と職業スキルの獲得を目指すカリキュラムを編成している。

各学科専攻の授業改善のために、授業公開を行い、キャリア教養学科と生活科学科食物栄養専攻は新任教員を中心に、福祉こども専攻こども保育コースでは、教員全員が指定の期間で全員授業を公開し、各学科専攻定例会で授業検討も行うという方法が定着してきた。

2. 学習成果の指針となるアセスメントポリシーの構築に向けて

令和5年度より、副学長（現学長）召集で学部長、専攻長参加の「学習成果」の明確化と、指針となりうるアセスメントポリシーの検討会議が行われた。令和7年2月20日行われた助言評価委員会では、現段階で各学科専攻の学習成果アセスメントの指針となる観点を整理し、報告した。

令和7年度には、学科専攻での論点整理と、指針の検討確認を改めて行い、学務部委員会で集約、確立する作業に入る予定である。

3. 教授会におけるシラバス作成のためのFD

令和4年度にシラバス様式の改訂を行った際に、教授会でFDを全専任教員に行った経緯があるが、教員の入れ替えなどもあり、改めて、シラバス作成の目的、具体的留意点や、評価の目的や方法など、FDで再周知を行った。

なお、各教員が作成したシラバスは、開講前にすべて学務部委員が確認し、適切に訂正や加筆など、学務部として科目担当教員へ連絡している。短期大学としては、実務家教員も数多く、授業方法から学生指導、成績評価の方法や授業改善への反映方法など、具体的なFDを学務部主体で随時継続することが求められる。

4. 全学FD/SD研修会の充実

令和6年度は、全学FD研修会に職員も参加する形で、FD/SD研修会として位置づけた。

講師として、スマートサブライビジョン理事兼特別講師 佐藤敏郎氏を迎え、「3.11を学びに変える」という演題で、講演をいただいた。佐藤敏郎氏は、宮城県石巻市の元中学校教員であり、東日本大震災時に、多くの児童、教職員の犠牲を出した大川小学校でご自分の次女を亡くされている。

当日は、学校における災害対応の必要性はもちろん、震災後の子ども達、若者や私たち教職員が、どのようにこの災害を語り継ぎ、災害大国でもある日本の学校教育だけでなく、社会として何をつないでいったらよいのか、貴重な提言と問題提起をいただいた。



群馬パース大学

FD委員 中下 富子

本学は豊かな教養と人間愛を備えた質の高い保健医療職を育成することを目的として、国家資格を有する看護師・保健師・助産師、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士を養成している。

令和6年度は、学生による授業アンケート回答率の向上、学生FD活動の継続、FD研修会等、授業改善に向けたFD活動を積極的に展開できたので、報告する。

1.学生による授業アンケート

全学科全履修者を対象に「授業項目」「担当教員」「自分自身」に関する質問項目について学生による授業アンケートを実施した。アンケート結果は、外部委託業者に依頼し、集計データより授業設計の段階からそのプロセスを振り返られるよう授業者にフィードバックした。

しかしながら、学生の授業アンケートの回答率は年々低下傾向にあることから、今年度後期より授業者（非常勤講師含む）が最終授業時に授業アンケート入力への協力を働きかけることを周知した。結果、後期授業アンケートの全体回答率は26.6%と上昇した。来年度もこの取り組みを継続するとともに、授業者からの学生へのフィードバックの方法についても検討することが課題としてあげられた。

2.学外実習評価アンケート

学外実習評価アンケートは学科単位で実施している。学外実習は感染症対策については昨年とほぼ同様に行いつつ、従来通り病棟等で実習を行うことができた。実習指導改善に向けて「実習項目」「担当教員」「実習指導者」「自分自身」に関する質問項目について実施した。アンケート結果は各実習単位認定者にフィードバックした。

3.ピアレビュー

本学では授業について授業者と参加者で相互に知識や授業内容・授業方法を共有するピアレビューを実施している。今年度のピアレビュー実施率は全体で31.4%であった。学科によっては、ピアレビュー可能な授業科目について授業者から情報公開し、授業者と参観者の交渉負担を減らした取り組みも見られる。ピアレビューを積極的に推進していくためには相互に学びやすい体制づくりの構築が

必要である。

4.学生FD推進のための交流会

昨年から引き続き学生FD推進のための学生と教職員との交流会を学生（8名）と教職員（5名）の参加のもとに実施した（12月10日）。学生からは、本学の良さや、他学科との連携の重要性等、真摯に語り合う様子が見られた。学科内の学年を超えたつながりや、他学科との交流の2点を深められるような視点を含め、今後も交流会を定期的に開催することを学生とともに共有した。

5.FD研修会

FD研修会（9月6日）では全教員を対象に伊藤智範氏（岩手医科大学 医学教育学講座 教授）による演題「22世紀へ向けた持続可能性のある医療教育～医療系大学の学部生への適切な教育技法を考える～」を開催した。

医学教育における臨床実習でのシミュレーション教育、多職種連携教育、多段階地域医療実習、キャリア教育等における具体的な教育技法、また「学習者とともにらせん階段を昇る教育者」としての在り方等、修得する機会となった。参加者からは「医療系大学で活用できる点が多々あり参考になった」等の感想が寄せられ、好評が得られた。

6.教育研修体系による研修会

ファーストレベルFD研修会（2月25日）では、大学教育経験5年以内の教員を対象に、榊原暢久氏（芝浦工業大学・教育イノベーション推進センター長 / FD/SD コーディネーター）による演題「半期の授業デザインワークショップ」を開催した。

講演の内容は授業の到達目標と評価方法、授業方法であり、参加者は自身の授業シラバスの目標等、ワークシートに記載、持参して受講した。参加者からは「授業を振り返り、課題を見出し具体的な改善点を見出す機会となった。」等、好評な感想が多々寄せられた。研修会の当日、学科によっては、実習指導等で参加が不可能な教員もみられたが、録画を聴取してもらうことで補充した。

7.FDネットワーク“つばさ”令和6年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」への投稿について

リハビリテーション学部理学療法学科洞口貴弘講師にご執筆いただいた。

明海大学

浦安キャンパスFD・SD委員会委員長
二宮 秀生

(3) 講演者：
教務部長 佐々木 文彦
株式会社リアセック 島崎 雅史氏

明海大学浦安キャンパスにおけるFD・SD活動は、浦安キャンパスの共通の課題に取り組む全体の活動と、各学部・学科・教育センターがそれぞれの専門領域と問題点を見据えて行う活動の2種類が例年行われてきた。

2024年度は、浦安キャンパスFD・SD委員会が中心となって行う「2024年度浦安キャンパスFD・SD研修会」を全4回実施した。また、「授業評価アンケート」について、学部では前学期1回、後学期1回の計2回実施し、大学院では1回実施した。

本稿では、併せて各学部・学科・教育センターによるFD・SD活動についても報告する。

1 第1回浦安キャンパス大学院・学部FD・SD研修会

(1) 開催日時：2024年6月27日(木) 13:00～14:00

(2) テーマ：「キャリア・就職支援について」

(3) 講演者：

株式会社リアセック 平田 史昭氏
総合教育センター 教授 大黒 章子

2 第2回浦安キャンパス大学院・学部FD・SD研修会

(1) 開催日時：2024年8月5日(月) 13:00～14:30

(2) テーマ：「科研費について(その重要性和意義)」

(3) 講演者：

副学長 申 基喆
保健医療学部 准教授 三分一恵里
経済学部 教授 高橋 義明
不動産学部 教授 中城 康彦
浦安キャンパス庶務課 課長 前田 洋佑

3 第3回浦安キャンパス大学院・学部FD・SD研修会

(1) 開催日時：2024年11月5日(火) 14:00～15:00

(2) テーマ：「AIの利活用と注意点—探究活動からのアプローチ—」

(3) 講演者：

総合教育センター 教授 遠藤 信一

4 第4回浦安キャンパス大学院・学部FD・SD研修会

(1) 開催日時：2025年3月10日(月) 14:00～15:00

(2) テーマ：「学修成果の可視化とPROGテスト」

5 授業評価アンケート(学部)

(1) 実施時期：年2回(前学期・後学期各1回)

ア 前学期

2024年6月24日(月)～7月6日(土)

イ 後学期

2024年11月25日(月)～12月7日(土)

(2) 実施方法

アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答する。

(3) 実施授業科目

専任教員及び非常勤教員が担当する学部授業科目。(ゼミの授業科目、履修者数5名以下の授業科目及び再履修者のみが履修する授業科目を除く。また、1教員あたり同一名称科目が複数ある場合は、履修者最多の授業科目を対象とする。ただし、FD・SD委員長が必要と認めた授業科目は追加できる。)

(4) 内容及び評価方法

学生は、教員の授業運営に関するもの(板書・配布物の読みやすさ、教員の説明のわかりやすさや進捗の適切さに関する設問等)及び自身の授業に対する興味・関心の深まり、満足度等についての設問に、匿名で五段階の評価を行う。その他、自由記述欄も設けている。

(5) 学生へのフィードバック

各教員によるコメントを学内ホームページにて公開し、学生に知らせている。

(6) 教員へのフィードバック

各FD・SD委員が現状分析と授業改善策を検討した上で、FD・SD委員会で全体の結果分析及び改善策をまとめ(総論)、FD・SD委員長から各学部・学科・教育センターを通じて各教員に知らせている。

(7) その他

授業改善のPDCAサイクル促進のため、教員は授業期間中の任意の時期に任意の方法で、授業評価とは異なる形で学生から授業に関する意見等のフィードバックを受け、可能な範囲で当該学期中の授業改善に取り入れることとしている。

(8) 実施結果等

ア 前学期：614科目対象／回答率35.8%

イ 後学期：575科目対象／回答率35.2%

6 授業評価アンケート（大学院）

(1) 実施時期：年1回

2024年6月24日（月）～7月6日（土）

(2) 実施方法

アンケートは、学生がPC又はスマートフォン等を利用してアンケート実施期間中の任意の時間にWebポータルシステムから回答する。

(3) 実施授業科目

専任教員が大学院で担当している講義科目（特別演習、特別研究及び履修者2名以下の科目は除く。）のうち、履修登録者数が最多の1科目

(4) 内容及び評価方法：学生は、教員の授業運営に関するもの（板書・配布物の読みやすさ、教員の説明のわかりやすさや進度の適切さに関する設問等）及び自身の授業に対する興味・関心の深まり、満足度等についての設問に、匿名で五段階の評価を行う。その他、自由記述欄も設けている。

(5) 学生へのフィードバック

各教員によるコメントを学内ホームページにて公開し、学生に知らせている。

(6) 教員へのフィードバック

浦安キャンパス研究科連絡・調整会議で全体の結果分析及び改善策をまとめ、各教員に知らせている。

(7) 実施結果等

16科目対象／回答率90.7%

次に、2024年度に各学部・学科・教育センターが独自に実施したFD・SD活動、特に研修会やワークショップ等について紹介する。

1 外国語学部日本語学科

(1) 日本語学科FD・SD研修会

ア 開催日：2024年11月14日（木）

イ 講演者：

西隈 俊哉 氏（一般社団法人日本語フロンティア代表）

神 恵介 氏（新世界語学院校長）

加須屋 希 氏（ユニタス日本語学校講師）

ウ テーマ：ICT・AIシステムを用いた言語研究手法

(2) 日本語学科FD・SD活動

ア 開催期間：2025年2月

イ テーマ：教材作成と著作権についての参考図書配布及び情報交換会

2 外国語学部英米語学科

(1) 第1回英米語学科FD・SD研修会

ア 開催日：2024年6月13日（木）

イ 講演者：内原 卓海 氏（東北大学大学院講師）

ウ テーマ：効果的な英語語彙指導のための準備と実践

(2) 第1回英米語学科FD・SD活動

ア 開催日：2024年9月26日（木）

イ テーマ：第1回英米語学科FD・SD研修会を基に、スキル系基礎科目の教授法改善を検討

(3) 第2回英米語学科FD・SD研修会

ア 開催日：2025年1月30日（木）

イ 講演者：金丸 敏幸 氏（京都大学准教授）

ウ テーマ：生成AIを活用した自律的な英語学習者の育成に向けて—教師と学習者にとって生成AI時代に必要なこと—

(4) 第2回英米語学科FD・SD活動

ア 開催日：2025年2月13日（木）

イ テーマ：第2回英米語学科FD・SD研修会を基に、授業及び研究にどのように生成AIを活用できるかを検討

3 外国語学部中国語学科

(1) 中国語学科FD・SD研修会

ア 開催日：2024年9月5日（木）

イ 講演者：大橋 賢一 氏（北海道教育大学・旭川校教授）

ウ テーマ：教員養成系大学における中国古典教育の実際

(2) 中国語学科FD・SD活動

ア 開催日：2024年12月12日（木）

2025年1月16日（木）

イ テーマ：中国語検定過去問題の調査と分析

4 経済学部経済学科

(1) 第1回経済学科FD・SD研修会

ア 開催日：2024年11月14日（木）

- イ 講演者：合田 敏行 氏（NHK 財団社会貢献事業
本部ことばコミュニケーションセンター
専門委員）
- ウ テーマ：指導法としてのコミュニケーションスキ
ル改善のための研修—敬語表現を中心
に—
- (2) 第2回経済学科FD・SD研修会
- ア 開催日：2025年2月27日（木）
- イ 講演者：分寺 杏介 氏（神戸大学大学院経営学
研究科准教授）
- ウ テーマ：バイズ統計学はじめての一步
- 5 不動産学部不動産学科
不動産学科FD・SD活動
- (1) 開催日：2024年7月23日（火）
2025年1月16日（木）
- (2) テーマ：2025年度新カリキュラムにおける専門教
育と基礎教育の情報共有・研修会
- 6 ホスピタリティ・ツーリズム学部ホスピタリティ・
ツーリズム学科
- (1) 第1回ホスピタリティ・ツーリズム学科FD・SD研
修会
- ア 開催日：2024年9月3日（火）
- イ 講演者：齊藤 嘉彦 氏（プライバシーマーク
審査員）
- ウ テーマ：個人情報保護とプライバシーマークにつ
いて
- (2) 第2回ホスピタリティ・ツーリズム学科FD・SD研
修会
- ア 開催日：2025年2月26日（水）
- イ 講演者：神末 武彦 教授
- ウ テーマ：Luxuryの現状について
- 7 保健医療学部口腔保健学科
口腔保健学科FD・SD研修活動
- (1) 活動期間：2024年4月1日（月）～2025年3月
31日（月）
- (2) テーマ：保健医療学部専任教員の歯科衛生学にお
ける教育力向上のための研修会
- 8 総合教育センター
- (1) 総合教育センターFD・SD研修会
- ア 開催日：2025年1月28日（火）
- イ 講演者：玉田 和恵 氏（江戸川大学教授）
- ウ テーマ：生成AIの利活用と教えるべき情報モラル
- 9 多言語コミュニケーションセンター
多言語コミュニケーションセンターFD・SD活動
- (1) 活動期間：2024年4月1日（月）～2025年2月
28日（金）
- (2) テーマ：The Effective Use of Thinking
Routines to Improve Critical Thinking
Skills
- 10 教職課程センター
- (1) 第1回教職課程センターFD・SD研修会
- ア 開催日：2024年12月16日（月）
- イ テーマ：英語教師のための生成AI・ICT活用法
- (2) 第2回教職課程センターFD・SD研修会
- ア 開催日：2025年2月8日（土）
- イ 講演者：大谷 美紀子 氏（国連こども委員、
弁護士）
- ウ テーマ：「こども大綱」が目指す「こどもま
なか社会」の実現に向けて

国際武道大学

FD部会長 丸橋 利夫

本学のFD・SD活動は、「内部質保証検討委員会」の下に設置する「FD部会」が中心となり企画・運営を行い、教育研究活動及び教育方法等の改善を図り、内部質保証の向上に努めている。

◎2024年度の活動状況は次のとおりである。

- 6月・FDネットワーク“つばさ”FD協議会
- 7月・前期「学生による授業評価アンケート」の実施
・「スポーツインテグリティに関する講習会」を開催
- 8月・FDネットワーク“つばさ”週刊授業改善エッセイの寄稿
- 9月・「情報セキュリティに関する講習会」を開催
- 1月・後期「学生による授業評価アンケート」の実施
- 2月・卒業時アンケートの実施
・「BLS（一次救命処置）講習会」を開催
- 3月・「コンディショニングセミナー兼FD・SD研修会～パリ五輪でのコンディショニングサポートからロス五輪に向けて」を開催

◎2024年度の取り組みの詳細は次のとおりである。

1. FD・SD研修会の開催

7月にスポーツインテグリティに関する講習会として、東海大学から勝田隆教授をお招きし、「新たな時代を見据えてインテグリティと向き合う」のテーマの元、スポーツにおけるインテグリティの考え方等を講演いただいた。

また、安心・安全な大学づくりとして毎年度継続して実施している「BLS（一次救命処置）講習会」（講師：本学山本利春教授、笠原政志教授、清水伸子准教授）を2月に開催した。

2. 合同研修会の開催

FD部会、情報システム部会及び個人情報保護部会の共催により、教職員一人ひとりの情報セキュリティに関する知識と意識の向上を図ることを目的として、株式会社東海ソフト開発代表取締役の河野将司氏をお招きし、情報セキュリティに関する研修会を9月に実施した。

また、FD部会とコンディショニング部会の共催により、「2024年度コンディショニングセミナー兼FD・SD研修会」を開催した。講師として緒方博紀氏（日本

バスケットボール協会スポーツパフォーマンスコーチ）をお招きし、「パリ五輪でのコンディショニングサポートからロス五輪に向けて」について講演いただいた。前述の「BLS（一次救命処置）講習会」と同様に本研修会は、体育系大学に従事する教職員として必要不可欠な知識及び技能を習得する機会であり、大変有意義な研修となった。なお、「コンディショニングセミナー」には教職員の他に多くの学生も参加した。

3. 各種アンケート調査

・学生による授業評価アンケートの実施

大学ポータルサイトを活用した学生による「授業評価アンケート」を前期（7/11～7/29）と後期（1/16～1/29）に実施した。自由記述を重視するアンケートとしており、学生たちから多くの貴重な意見が寄せられた。

・卒業時アンケートの実施

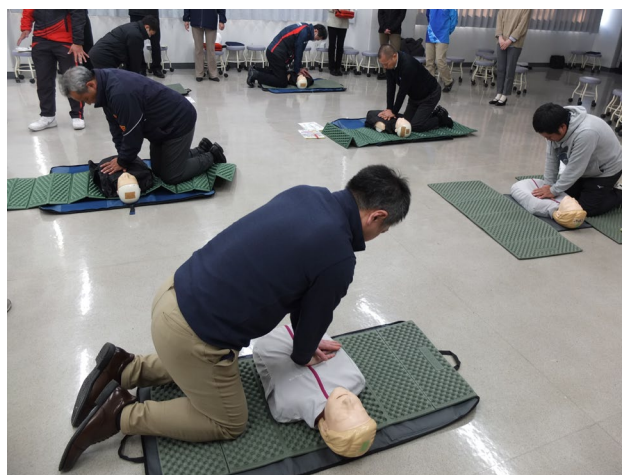
オンラインアンケートフォームを活用し、卒業予定の学生を対象に「卒業時アンケート」を実施した結果、8割を超える回答を集めた。「国際武道大学で学んでよかったと思いますか」という問いに対して、「とてもよかった、よかった、まあまあよかった」と回答した割合が、9割以上という高い数値を得る結果となった。

また、上記2種のアンケート結果を、本学ホームページ上で公表した。

・授業改善に関するアンケートの実施

授業の質的向上、改善、充実を図る目的から、「学生による授業評価アンケート」に基づく「授業改善に関するアンケート」を全教員に向けて実施した。

BLS（一次救命処置）講習会の様子



北里大学

高等教育開発センター長 市川 尊文

本学では、本年度から新たに健康科学部（新潟キャンパス）を開設したことで9学部18学科となり、生命科学の総合大学として「知」のネットワークにより連携し、生命の真理を探求し、未知の世界を切り拓くとともに、社会で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。養成する人材像を達成するにあたり、全学のFD活動を大学の附属施設の一つである「高等教育開発センター」が中心となって実施している。本センターが本年度に実施・推進した事業について、それぞれ概要を以下の通り報告する。

1. 講演会・研修会等の開催

(1) 新任教員研修会の開催（参加者：1日目38名、2日目37名）

2024年8月8日（木）・8月9日（金）の2日間、人事部との共催で、新任教員を対象とする研修会を開催した。実施方法は前年度と同様に、本学白金キャンパスにおいて対面形式で実施された。

1日目は人事部が主となり、理事長及び学長による本法人や本学の現況、本学の教員としての心構えなどについての講和ののち、外部トレーナーによる研修と、目指す教員像についてディスカッションを行った。

2日目は本センターが主となり、まずは学内教員による「最近の学生気質と学生相談の傾向」「学生調査結果に見る本学の学生像」の講演を実施し、その内容を踏まえ「学生とどう向き合うか」についてのグループワークを行った。

(2) FD講演会（予定）

2025年3月25日（火）に、高等学校で情報科目を担当する教諭による講演会「高校における「情報教育」について」を開催する。本学では、2022年度から「北里大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を、2023年度から未来工学部（データサイエンス学科）を開設するなど、情報教育を推進している。また、2025年度からは高等学校において「情報I」を学んだ高校生が入学してくることを踏まえて、情報教育について円滑な高大接続を検討及び展開することを目的に企画した。なお、対象は本学の全教職員としている。

2. アンケート等の実施

(1) 学修等に関するアンケート

2024年度に在学する全学部生を対象に、学生の学習、大学生活の実態と意識を調査分析し、教学運営や学内生活環境の改善を目的とするアンケートを実施した（実施期間：2024年11月～2025年1月）。

なお、2021年度以降、実施方法をオンラインとしてから回答率の低下が続いていたが、今年度は周知方法や学生へのDMを徹底したことにより、大幅な改善が見られた。本アンケートは、本学の在学生の全体像を把握する意味で多くの回答を得ることが重要である。したがって、次年度についても、更なる回収率向上を目標に引き続き施策を検討していく。

3. 冊子等の発行

(1) レポート作成のためのガイドライン

本学ではレポートの書き方に悩む学生のための小冊子『レポート作成のためのガイドライン』を毎年度入学生に向けて配布している。前年度にChatGPTの扱いなどの加筆し、大幅な改定を実施した。今年度も、前年度の改定箇所を含めて全体の記載内容を点検し著作権に関する文章などについて加筆を行った。新版は2025年度の入学生から配布される。

(2) 年報

2023年度北里大学高等教育開発センター年報を発行した。本年報には本センターの活動実績の概要のほか、上記2.(1)の「北里大学における学修等に関するアンケート」の調査結果等も掲載しており、今後の教育改善に活用する。

(3) 叢書

2024年2月21日（水）に開催（本学学生指導委員会との共催）した「大学における自殺対策について—学生支援および危機対応の一環として—」について叢書を発行した。叢書は2008年度以降、舞FD講演会ごとに発行しており、今回でVol.26となる。なお、1.(2)の「高校での「情報教育」について」も叢書を発行する予定である。

4. その他

(1) ネットワーク“つばさ”令和6年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」への投稿

今年度は、本学海洋生命科学部小檜山篤志教授にご執筆いただき、掲載された。

日本保健医療大学

FD委員長 金子純一郎

1. 研修会の概要

2024年度の研修会は、看護領域および理学療法領域における臨地実習や総合臨床実習を対象とした実習前評価をテーマに開催しました。タイトルは「実習を見据えた授業展開と評価について」とし、令和7年2月26日（水）に実施しました。

研修会では、オープニングリマークとして「ルーブリック・OSCE等の授業評価について」を概説し、各学科の教員による実習前評価の現状報告を行いました。また、グループディスカッションでは「実習前の到達目標と実習の進め方」を中心に議論しました。

2. オープニングリマーク

「ルーブリック・OSCE等の授業評価について」FD委員長である理学療法学科の金子純一郎より、ルーブリックやOSCEを活用した授業評価について講演がありました。特に、学内実習で用いられるOSCEについて、模擬症例、評価者・指導者の視点を踏まえ、OSCE評価の分類（スキル型・臨床推論型）について解説しました。

3. 各学科教員による実習前評価の報告

(1) 看護学科の報告

看護学科の担当講師である山中京子氏が、実習前演習を通じた看護師に必要な能力の評価について、アンケート結果をもとに解説しました。評価項目として、以下の点が挙げられました。

- ・ 予測力、観察力、判断力・思考力、協調性
- ・ 礼儀、コミュニケーション能力
- ・ ニードの理解、問題解決能力、倫理観
- ・ 対人関係、安全・安楽な看護技術
- ・ 健全な身体・精神、人間性、探求心

- ・ 思いやり、ユーモア、安心感、癒し

また、本校の実習前評価の現状として、1年次前期の「基礎看護学実習 I」、2年次前期の「基礎看護学実習 II（看護過程・日常生活援助）」までの期間に技術練習の機会が乏しく、学習不足や知識・技術の低下が課題であることが指摘されました。今後のカリキュラム改善の必要性が示されました。

さらに、OSCE授業の重要性と意義について、自己知覚や自主練習の動機づけの視点から解説し、2024年度の看護実践統合（OSCE）の具体的な内容とスケジュールを説明しました。実施後の教員アンケートでは、授業のあり方、シミュレーションの方法、試験運営に関する意見が収集され、OSCEが学生の思考力や技術向上に寄与していることが共有されました。

(2) 理学療法学科の報告

理学療法学科の担当講師である大森啓之氏が、理学療法教育における実習前評価の意義や実施概要について解説しました。実習前評価として、CBT（Computer Based Testing）とOSCEを導入し、その実施概要（試験日程、採点項目、模擬患者の活用、指導方法など）を報告しました。

OSCEでは、以下の能力を評価する機会を提供しました。

- ・ コミュニケーション能力、対話能力
- ・ 情報収集、視診、問診、触診、観察
- ・ 臨床推論能力、理学療法計画の立案

また、CBTの導入により、低学年のうちから国家試験を見据えた知識評価が可能となり、学習の動機づけにもつながることが示されました。OSCEを通じた技術・態度の評価により、基礎的な実技レベルを確認し、実習遂行が困難な学生の減少が見られました。

今後の課題として、以下の点が挙げられました。

- ・教員の指導中心の評価
- ・学生自身の振り返りが不足している
- ・CBT・OSCEの結果を活用した具体的な学習計画の立案の促進
- ・ルーブリック評価が未導入であり、実習前評価が診断的評価に留まっている

これらの課題を解決するために、「診断的評価」だけでなく「形成的評価」を関連付け、臨床実習への効果的な接続方法を検討していく必要があると指摘されました。

4. グループディスカッション

「実習前の到達目標と実習の進め方（学生の実習到達度を含む）」をテーマにグループディスカッションを実施しました。

- ・挨拶や礼節を主体的に行う姿勢の指導
- ・患者の主訴や主観を尊重した対応の重要性
- ・学生の身だしなみ指導
- ・コミュニティを意識した行動の促進
- ・ポートフォリオを活用した形成的評価の実践

これらの点について、学内実習や臨地実習の振り返りを通じて活発な意見交換が行われました。

5. 総括

本研修会では、実習を見据えた授業展開と評価のあり方について、特に実習前評価を中心に議論しました。ルーブリックやOSCEを活用した授業評価、各学科の実習前評価の取り組み、グループディスカッションを通じて、実習前評価の現状と課題が明確になりました。

6. 今後の課題

- ・ルーブリックを導入し、学生が理想とする医療職の姿を具体的に想像できる評価方法の確立
- ・形成的評価を習慣化し、継続的に到達度や自己課題を振り返る指導の推進
- ・臨床実習への効果的な接続方法の検討

などが挙げられます。これらの課題について、学内で引き続き活発な意見交換を行い、実習教育の質の向上を目指していきたい。

帝京平成大学

FD委員会委員長 小松俊哉

I. はじめに

本学は東京都と千葉県に4キャンパスを有する5学部18学科からなる総学生数約1万人の総合大学であり、「実学」の精神を基とする建学の精神に則り、医療・健康・福祉・教育・経営・情報等の分野で活躍できる人材の育成に取り組んでいる。以下、本年度の本学におけるFD活動についてその概要を報告する。

II. FD委員会の年間活動方針

本年度の第1回FD委員会において、以下の「年間活動方針」を決定し、それに基づき種々の取り組みを行った。

- ① キャンパス横断的な全学的FD活動推進の取り組み
- ② 各キャンパスのFD委員会機能の活性化
- ③ 学生の主体的・能動的学びを促す授業への積極的な取り組み
- ④ ICTを活用した効果的・効率的な授業への積極的な取り組み
- ⑤ 授業改善に資する情報の収集・分析への組織的な取り組み
- ⑥ FD活動とSD活動の協働・連携を前提とした活性化
- ⑦ 教務委員会及び学修支援センターとの相互連携による学修支援体制の円滑な運営

III. FD活動関連の恒常的な取り組み

1) 公開研究授業・合評会

本学では、原則1教員あたり年間1回以上、授業を公開することとしている。授業参観者・公開者のアンケートの回収には、学修支援システムmanaba(株式会社朝日ネット)を利用した。キャンパス毎の公開授業数、参観者数、合評会参観者数は以下のとおりである。

【前期】

池袋：137授業，304名，76名
 中野：145授業，213名，49名
 千葉：56授業，183名，32名

【後期】

池袋：67授業，274名，58名
 中野：116授業，129名，42名
 千葉：57授業，185名，38名

2) 「学生による授業評価」アンケート

本学では、原則、全開講科目についてアンケートを実施しており、学生ポータルサイト UNIVERSAL PASSPORT(日本システム技術株式会社)上で実施した。リフレクション・シートについても同システム上

で実施した。キャンパスごとの実施時期、実施科目数は以下のとおりである。

【前期】

池袋：7月3日～7月28日，569
 中野1Q：5月13日～6月2日，19
 中野&2Q：7月3日～7月28日，877
 千葉：7月3日～7月28日，415

【後期】

池袋：12月4日～1月12日，652
 中野3Q：10月28日～11月10日，20
 中野&4Q：12月4日～1月12日，942
 千葉：12月4日～1月12日，375

3) FD/SD研修会

対面およびTeams配信での講演と、学修支援システムmanaba上でのオンデマンド視聴との併用で、下記のFD/SD研修会を開催した。

第1回(千葉キャンパス主催)

- ・講演およびライブ配信日：11月11日
- ・内容：「健康医療スポーツ学部柔道整復学科における国家試験対策について～過去の実施方法と今後の展望紹介～」

・参加者数：152名(オンデマンド視聴含む)

第2回(中野キャンパス主催)

- ・講演およびライブ配信日：11月20日
- ・内容：「学生参加型授業の促進にむけたMicrosoft ITツールの活用例」

・参加者数：207名(オンデマンド視聴含む)

第3回(千葉キャンパス主催)

- ・講演およびライブ配信日：1月10日
- ・内容：「Microsoft Copilot(AIアシスタント)を活用した教育内容の充実～体験を通してAIの理解を深める～」

・参加者数：139名(オンデマンド視聴含む)

第4回(池袋キャンパス主催)

- ・講演およびライブ配信日：2月21日
- ・内容：「2025年度の授業づくりにおいて、授業の構成、パワーポイントやワークシートの活用、アクティブラーニングへの取り組みなど、実際に授業を実践する中で得た知見の紹介」

・参加者数：82名(オンデマンド視聴含む)

IV. 学外研究会・講演会等への参加と学内での情報共有

1) FDネットワーク“つばさ”関係

- ①第32回FDネットワーク“つばさ”FD協議会
6月28日にオンラインで開催。FD委員長と事務局担当者が参加した。
- ②第4回「週刊・授業改善エッセイ」
FD副委員長が「SDGs実学プログラムの取り組み」というタイトルで寄稿した。
(URL:<https://www.yamagata-u.ac.jp/gakumu/tsubasa/essai/06-04.html>)
- ③第26回基盤教育ワークショップ
9月11日にオンラインで開催された。本学からはFD委員1名が参加した。
- ④FDネットワーク“つばさ”研究年報
3月21日、FD委員長が寄稿した。

2) 私立大学情報教育協会関係

- ①私立大学情報教育協会総会
3月27日、5月31日、11月29日の総会に本学代表が出席または議決権を行使した。
- ②2024年度ICT利用による教育改善研究発表会
8月23日にオンラインにて開催され、本学教員が「生成AIやメタバースを活用した授業に関する研究」および「ICTを活用した事前質問集と振り返りレポート集の作成・共有による教育効果の向上」と題して発表し、また、教員2名が参加した。
- ③2024年度教育イノベーション大会
9月5日～7日にオンラインにて開催され、本学教員が「大規模言語モデルへの回路図入力の試行」と題して発表した。

3) その他

- ①2024年度全国私立大学FD連携フォーラム シンポジウム
6月15日に開催され、FD委員1名が参加した。

V. 「FD NEWSLETTER」

本学FD活動に係るニュースレターを2025年3月31日に刊行した。

第3章

F D 協議会

第32回 FDネットワーク“つばさ”FD協議会

羽陽学園短期大学
 鶴岡工業高等専門学校
 会津大学
 桜の聖母短期大学
 筑波技術大学
 明海大学
 国際武道大学
 日本保健医療大学
 帝京平成大学
 山形大学

はじめに

令和6年6月28日(金)に、第32回FDネットワーク“つばさ”FD協議会を対面及びZoomによるオンラインのハイブリッド形式で開催し、21校41名の出席があった。

はじめに、栗山FD運営協議会議長から、FDネットワーク“つばさ”の令和6年度事業計画(案)などについて説明があった。

次いで、第2部の事例紹介では、「基盤力テストの全国実施状況について」をテーマに、国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学、国立大学法人香川大学、及び国立大学法人山形大学から実践事例の紹介があった。

(1) スケジュール

日時：令和6年6月28日(金) 14:30～16:45

方法：対面及びZoomによるオンラインのハイブリッド形式開催

[第一部：協議会] 14:30～14:50

- 1 令和6年度事業計画について(案)
- 2 その他

[第二部：事例紹介] 15:00～16:45

テーマ「基盤力テストの全国実施状況について」

- 1 国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学での実践事例
- 2 国立大学法人 香川大学での実践事例
- 3 国立大学法人 山形大学での実践事例

質疑応答及び総合討論

(配布資料)

資料	参加者名簿
資料1-1	令和6年度FDネットワーク“つばさ”事業計画(案)
資料1-2	令和6年度「週刊・授業改善リレーエッセイ」 執筆担当校(案)
参考資料	FDネットワーク“つばさ”加盟校一覧
参考資料	FDネットワーク“つばさ”協議会要項
事例紹介1	国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学
事例紹介2	国立大学法人 香川大学
事例紹介3	国立大学法人 山形大学

(2) 出席加盟校一覧

札幌大学
 札幌学院大学
 青森公立大学
 青森中央学院大学
 八戸学院大学
 富士大学
 仙台大学
 東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部
 山形県立米沢栄養大学
 東北芸術工科大学
 山形県立米沢女子短期大学

令和6年度 FDネットワーク”つばさ”加盟校一覧

R7.3.31現在

※山形大学を除く

1	札幌大学	24	会津大学短期大学部
2	札幌学院大学	25	桜の聖母短期大学
3	北翔大学 北翔大学短期大学部	26	いわき短期大学
4	育英館大学	27	筑波技術大学
5	青森公立大学	28	茨城県立医療大学
6	青森県立保健大学	29	群馬パーズ大学
7	青森中央学院大学	30	明海大学
8	青森中央短期大学	31	国際武道大学
9	八戸学院大学 八戸学院大学短期大学部	32	了徳寺大学
10	富士大学	33	文教大学
11	仙台大学	34	人間総合科学大学
12	東北生活文化大学 東北生活文化大学短期大学部	35	日本保健医療大学
13	仙台白百合女子大学	36	帝京平成大学
14	宮城学院女子大学	37	東京家政大学
15	山形県立保健医療大学	38	東京家政学院大学
16	山形県立米沢栄養大学	39	嘉悦大学
17	東北芸術工科大学	40	デジタルハリウッド大学
18	東北文教大学 東北文教大学短期大学部	41	北里大学
19	山形県立米沢女子短期大学	42	神奈川大学
20	羽陽学園短期大学	43	関東学院大学
21	鶴岡工業高等専門学校	44	湘南医療大学
22	会津大学	45	高岡法科大学
23	東日本国際大学	46	沖縄県立芸術大学